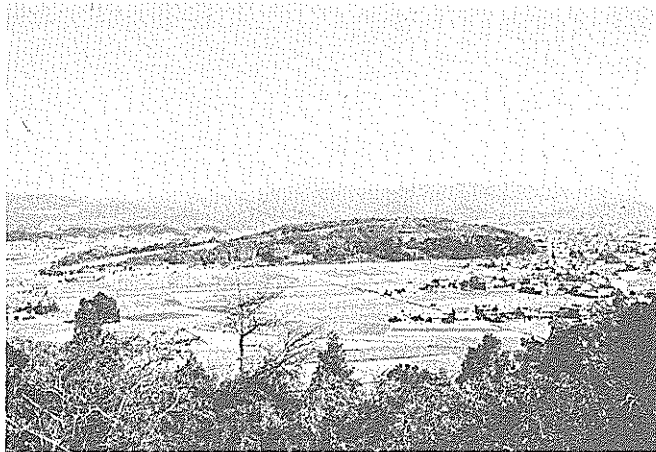


# 吾岡山カット、来春早々に着工



今後の焦点は……

## 跡地利用・周辺整備など

高知空港拡張にともなう「吾岡山の切り取り」について、地元・県・市の三者は、これまで、大篠小学校の改築、跡地利用、周辺整備などの地元から出された切り取りの条件をもとに話し合いを続けてきましたが、十二月一日の三者の話し合いのなかで、「ジェット機就航までに大篠小の改築と香長中の騒音対策を行う」という

運輸省の回答（小笠原市長らが陳情）が示され、これをつけた地元は切り取りを事実上了承し、来年早々には着工、三月下旬には完工することになりました。

その姿を変えていく吾岡山。しかし、この切り取りには、跡地の利用方法や周辺の整備など、まだ、まだ多くの問題が残されています。

大篠地区民の心のふる里「吾岡山（別名・鯨山）」——高知空港拡張にともない、この吾岡山の切り取りが決定したのは一年前。

地元では、遅ればせながら地元組織「大篠地区周辺環境整備推進会」を九月に結成し、吾岡山の切り取りを了承する条件として……  
①大篠小学校の運輸省サイドでの改築  
②切り取り後の跡地利用  
③周辺の整備、この三点を柱として、県・市との話し合いや要望書づくりを進めてきました。

一方、市と議会では十一月二十七日、小笠原市長、島内議長、橋本空港対策調査特別委員長が運輸省に対して、最後ともいえる「大篠小の運輸省サイドでの改築」を陳情しました。運輸省の回答は「ジェット機就航までに大篠小の改築

と香長中の騒音対策を行う」で、市長らはこの「みやげ」を、十二月一日の地元、県、市の三者の話し合いで発表。

この話し合いの席上、県は「ジェット機が飛べる標高五七・四三メートルまでを今年度中にカットしたい。カットにより出るケイ石の量は約一万九千立方メートルで、ダンプカーで西方の舟岡山空き地へ運んだ後、日本セメントが引き取ることになっている。また、防災面では、一時間六十リットの雨に耐えられるよう直径四十五センチのコングリート側溝を予定している」と説明。

これに対して、地元推進会は「さらに県、市、地元が一体となって万手進めてもらいたい。市民のいいの場として使用するためには、さらにカットが必要だし、課題は

まだまだ多いので、最後まで責任をもってください」と、「切り取り」の事実上の了承と、残された跡地利用や周辺整備への取り組みを強く要請しました。

これにより、県は来年一月十日頃から切り取りの工事を始め、三月下旬には五七・四三メートルの工事を完了させる計画です。

今後の問題の焦点は①跡地の具体的な利用方法・施設設置計画②地元からはグラウンド、テニスコート、プール、老人と子どもの広場、遊歩道、フィールドアスレチック、文化センター、駐車場などが希望されていますが、どの程度のもので実現されるかによってカットの高さが変わってくるので、なお検討の必要があります。③周辺の整備④地元からかなり広い範囲での道路、水路、公民館の改築などの要望が出されていますが、はたしてどれくらいが整備されるのか、関係機関の協議が続けられます……これらの問題に移ったといえます。

